

創刊号 (1998. 3. 31発行)

国絵図ニュース

発行 国絵図研究会 〒862-0971 熊本市大江2-5-1
熊本学園大学社会福祉学部上原研究内
TEL 096-364-5162 FAX 096-372-0702

第7回例会 出羽国絵図の熟覧と研究発表会のご案内

小野寺淳先生と現地の阿部俊夫先生のお世話により、下記の通りの日程で出羽国絵図の熟覧と研究発表会の通知がまいりました。国絵図研究会初めての東北での研究会で、しかも発表会場は温泉宿です。研究とその輪を広げるのにまたとないチャンスかと思えます。奮ってご参加下さいますようお願い申し上げます。

↑ 記 ↓

国絵図研究会を下記のように開催いたしますので皆様のご参加をお待ち申し上げます。参加される方は、4月末日までに同封のハガキで小野寺淳までお申し込み下さい。

日程・内容； 6月4日（木）研究発表 16：30～18：00
小野寺 淳（茨城大学）；出羽国絵図の作成過程について
阿部 俊夫（福島県歴史資料館）；米沢藩作成の際絵図について
5日（金） 米沢図書館所蔵国絵図熟覧 10：00～15：00
（米沢図書館の担当者は植木伸子氏です）

熟覧予定絵図・出羽一國御絵図（正保）・出羽一円大絵図（正保）
・米沢伊達信夫郡大絵図（元禄12）
・米沢領内村高付絵図（元禄12）
・福島江相渡際絵図御控（元禄12）
・福島ヨリ相江渡サレシ際絵図（元禄12）
・米沢領端絵図但福島境通会形（元禄12）
・米沢領端絵図但福島境通会形控（元禄12）
・米沢領村高大絵図（元禄13） ・福島領際絵図（元禄13）

宿泊； 白布温泉中屋旅館 （研究発表会会場）／別紙の案内参照
費用 15,000円（一切の費用を含んでいます。）
（尚、大学院生の方のために、8,000円程度の民宿も用意しておりますので、ご希望の方は民宿希望と記して下さい）

集合時間； 米沢駅改札口 6月4日 15：30集合
つばさ133号 東京発 13：12 米沢駅着 15：27
（米沢駅から白布温泉まで車で30分ほどです。駅に車を数台用意しておきますので、ご希望の方は事前に参加申し込みハガキに記入するか、小野寺淳まで電話などでご連絡下さい。）

問い合わせ先； 310-0056 水戸市文京2-1-1 茨城大学教育学部 小野寺淳
電話 029(228)8294 (大学研究室)
E-mail ononodera@mito.ipc.ibaraki.ac.jp
0298(41)5050 (自宅・FAX兼用)
030(524)8077 (携帯)

江戸幕府が編んだ国絵図の大きいことは知る人とぞ知るところであります。組織的につくられた公用地図で、これほど大きなものは世界的にも類例がないでしょう。日本でこのように大きな地図が作られるのは畳の敷かれた大広間があるためです。西洋では床面は土足で生活しますので、地図を床に広げる習慣はないようです。大きな地図は壁にかけるのが一般的ですから、地図の図幅は壁面の大きさに規制されて自ずと限界があります。畳の文化と壁の文化の違いを感じます。また、日本ではどんな大きな地図でも折り畳みの技がありますので収納、保管にさほどの不都合はありません。それに対して、西洋では折り畳みの技がなく、大きな地図はたいてい巻き込んでいますので、余り大きいと収納に困るようです。

江戸幕府国絵図の縮尺が全国一様に統一されたのは正保度からですが、これは恐らく諸国の国絵図をつないで日本総図を編集するための都合を考えてのことであつたと思われまゝ。それではなぜ縮尺の数値が6寸1里（2万1,600分の1）に決められたのであろうか。その確たる理由は分かりませんが、私なりに想像しますに国内を郡ごとに区分し、村形を用いてその枠内に逐一村々の村名と村高を記すには、この程度の大きな縮尺でなければ文字や数値を墨筆で記入するのが困難と判断されたためではないでしょうか。幕府担当者はこのことを判断するために、多分いずれの国が既存の国絵図をサンプルにして、この縮尺の数値を経験的に決めたのであろうと考えます。

ところで、6寸1里で作成された諸国の国絵図を概覧するに、周防や長門のように村高が3,000石を越すような大村の多い国では、村々は図中に十分な間隔でゆとりをもって図示されていますが、1,000石にも満たない小村の多い加賀や越中などの場合は村形がすき間なく窮屈に寄り合っていて、6寸1里の縮尺をもってやっと村々の記載が適えられたとの印象を受けます。

元禄国絵図のうち最も大きい部類の伊予国絵図では縦2丈4尺6寸5分(7.47メートル)、横2丈4尺8寸5分(7.53メートル)もあります。そのほか土佐、周防、肥前、肥後、出羽秋田領、信濃、越後蒲原・岩船郡、越後高田・長岡領各国絵図なども縦横の一方が2丈を越えるような大図幅です。このような巨大な国絵図は大広間でなければ広げることもしません。国絵図のような大きな絵図の調査には個人的な対応では困難を伴うことも多々あります。私なども長年、全国各地の国絵図を渉猟して歩きましたが、調査での苦労話は山ほどあります。個人では閲覧が適えられない場合もあつて地団駄を踏むこともありま

した。

近世絵図に関心をもつ有志が集まって互いに協力し合い、各地に眠っている国絵図やその他の絵図と一緒に熟覧、調査、意見の交換ができることはまことに喜ばしい限りです。個人で対応できないこともグループであれば目的が適えられることがあります。そしてまた、全国各地に在住する同士が地元で得る近世絵図の展示会など関係する情報を互いに発進し合えるネットができれば、こんな有難いことはありません。気軽な同好者の集まりですが、この会が近世絵図への関心を助長し、この方面の研究にいささかでも寄与できればと願っています。

丹波国の国絵図に関する史料は、横田冬彦氏によってその多くが検討された。そのなかで横田氏は、国立公文書館の内閣文庫の元禄国絵図の閲覧が停止されているので、これに代わる控図の類を探したが発見できなかったという。今回、筆者は亀岡市史の調査によって兵庫県柏原町歴史民俗資料館において元禄丹波国絵図の控図とそれに関連する史料、正保丹波国絵図の縮写図などを確認した。また、これ以外にも若干の史料を知りえたので、横田氏が利用した史料も含め紹介しておきたい。

1. 国絵図の類

- ①正保丹波国絵図（京都府立総合資料館）
- ②正保丹波国絵図（内閣文庫中川忠英旧蔵本）
- ③正保丹波国絵図（内閣文庫松平乗命旧蔵本）
- ④正保丹波国縮写絵図（柏原町歴史民俗資料館）
- ⑤元禄丹波国絵図（内閣文庫）
- ⑥元禄丹波国絵図（柏原町歴史民俗資料館）
- ⑦元禄丹波国縁絵図（国立歴史民俗博物館秋岡コレクション）
- ⑧天保国絵図（内閣文庫）
- ⑨天田郡・何鹿郡絵図（綾部市資料館）
- ⑩福知山預全村村絵図（島原市立図書館松平文庫）
- ⑪丹波国船井何鹿両郡領主色別図（京都府立総合資料館）
- ⑫船井郡一円図（京都府立総合資料館）
- ⑬船井郡絵図（京都府立総合資料館）
- ⑭亀山藩領絵図（亀岡市文化資料館）

正保国絵図 幕府に提出された正保国絵図は、いつの頃か失われて今のところは見えていない。周知の通り現在内閣文庫に所蔵される②と③は、後世の写しであって正確なものとはいえない。②は各村形の村高と領主名を欠いており、③は村高と「いろは記号」で領主を示しているがその領主名の凡例はない。また、柏原町歴史民俗資料館の④は、元禄国絵図の作成に際して写されたもので、石高と領主名を欠いている。

これに対して、横田氏が利用した①の京都府立総合資料館の正保丹波国絵図は村高と領主名を正確に記しており、幕府に提出された清絵図の控図もしくはその写しと考えられ、精緻かつ詳細に描かれた貴重な史料である。

元禄国絵図 前述したように幕府官庫に納められた清絵図である内閣文庫の⑤は、閲覧が停止されている。こうした点から柏原町歴史民俗資料館の⑥は貴重である。

元禄丹波国絵図の絵図元は、清絵図受持の福知山藩主朽木伊予守殖昌（天田・何鹿郡担当）、園部藩主小出伊勢守英利（船井・桑田郡担当）、柏原藩主織田山城守信休（多紀・水上郡担当）であった。正保国絵図の絵図元は、亀山・福知山・篠山藩が担当した。しかし、元禄国絵図の総責任者に亀山藩主の若年寄井上大和守正岑がなったために、元禄国絵図の絵図元は前述のように亀山藩から柏原藩へと交代した。

柏原町歴史民俗資料館の⑥は、絵図元の一つの柏原藩に伝えられたものである。今後、①の正保国絵図や⑤の献上図との比較が期待される。また、⑦の国境縁絵図と国絵図の関係も検討が求められる。

その他 天保国絵図は、⑧の内閣文庫のものしか発見できていない。また、⑨～⑭の郡絵図や藩領絵図は、国絵図の下図と考えられるものである。⑨は、慶安3（1650）年の作成年が記され領主色分けもあり、正保国絵図に関連したものであろう。また、⑪も領主色分けがあることから同系統に属する絵図とみられる。さらに、⑭は、元禄国絵図と石高が一致しており、同事業に関連するものとみてよからう。しかしながら、⑩・⑫・⑬は、その

作成時期を確定しえないので、今後の検討が待たれる。

2. 郷帳

- ①正保郷帳（栗田文庫）
- ②元禄郷帳（京都府立総合資料館）
- ③丹波一円村高記（京都府立総合資料館）
- ④元禄領分附郷帳（国立史料館）
- ⑤天保郷帳（内閣文庫）

正保郷帳 ①の正保郷帳の表紙には、「古郷帳丹波国郷帳」とあり、奥付に「正保四年亥三月吉日」の日付と、正保国絵図の絵図もとである篠山藩主松平忠国、福知山藩主稲葉紀通、亀山藩主菅沼定昭の名がみられる。残念ながら桑田・船井両郡を欠いている。

元禄郷帳及びその他 ②の元禄郷帳は、旧幕関係文書と呼ばれるもので、明治政府の成立時に旧幕府諸機関から京都府に移管された史料である。表紙に丹波国郷帳とあり、奥付に「元禄十三庚辰年十一月」の日付と元禄国絵図の絵図元の3大名が記されている。郷帳の記載内容も幕府の作成基準と一致している。横田氏も指摘するように、幕府に提出した元禄郷帳の最終段階の控えと考えられる。

3. 関係史料

- ①柏原藩御用部屋日記（柏原町歴史民俗資料館）
- ②多紀郡・氷上郡変地帳（柏原町歴史民俗資料館）
- ③知行所村高付帳（綾部市立図書館）
- ④役所日記抜書

①は、柏原藩の日記で、同藩の元禄国絵図に関する記事が散見できる。他藩との折衝などは興味深い。②は、①と同じく柏原藩が担当した、多紀郡と氷上郡に関する正保国絵図から元禄国絵図への変化をまとめたものである。③は、元禄国絵図の際に絵図元が、各領主に出した変地照会に対して、各領主が出した回答書をまとめたものである。綾部藩は、絵図元ではないにもかかわらずこうした史料を所蔵している。絵図元でない藩が、どのように国絵図編纂事業に関与したかを考える史料として重要である。④は、綾部藩の日記の抜き書きである。前述③の知行所村高付帳に関する記事がみられる。

以上が現在までに管見できた丹波国の国絵図と関係資料である。新に元禄国絵図が発見されたことによって、正保国絵図との比較が可能となった。多くの領主が錯綜する丹波国の地域研究や国絵図編纂事業の実体解明に役立つものと考えられる。

4. 参考文献

- 1 横田冬彦「元禄国郷帳と国絵図—丹波国を中心として」文化学年報第4号（1985）
- 2 柏原町歴史民俗資料館編『絵図に描かれた丹波柏原』柏原町歴史民俗資料館（1992）
- 3 綾部史談会編「郷土史料集第8集知行所高付帳」綾部史談会（1954）
- 4 綾部市史編纂委員会編『綾部市史史料編』綾部市役所（1994）

柏原町歴史民俗資料館

館に直接連絡すれば、休館日に閲覧は可能です。4×5版の写真も手に入れることもできます。また、参考文献2の図録も販売しています。

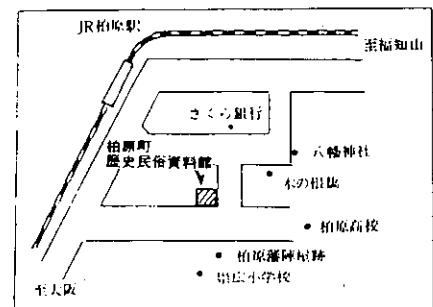
〒兵庫県氷上郡柏原町柏原672

TEL 0795-73-0177

開館17:00（入館16:30まで）

月曜休館（月曜が祝日の場合はその翌日休館）

大人200円



〔交通案内〕 JR柏原駅下車徒歩約5分

本の紹介

シーボルト・日本を旅する

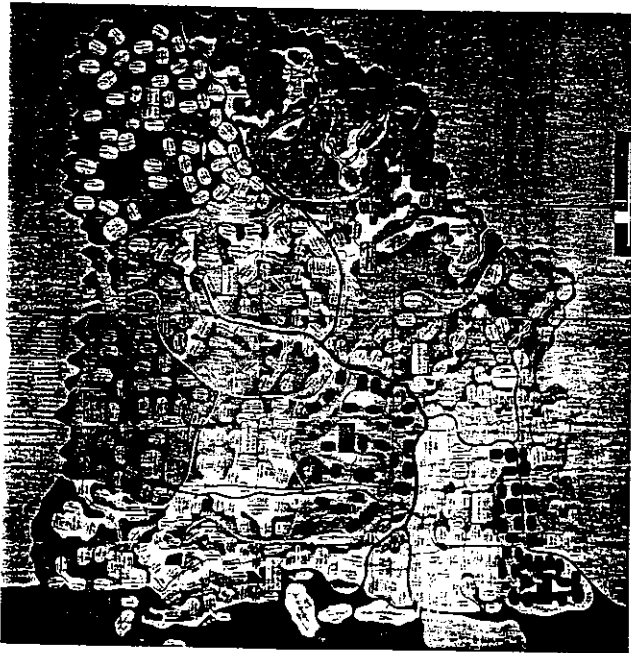
—外国人が見た日本の原風景—

♡	発 行	(財)シーボルト・カウンスル
♠	監 修	堺市博物館
◇	価 格	一部2,000円
♣	郵 送 料	340円
◆	購入方法	〒590堺市百舌鳥夕雲町2丁

堺市博物館内の唄(ばい)氏まで上記本代と郵送費計2,340円を現金書留でお送り下さい。

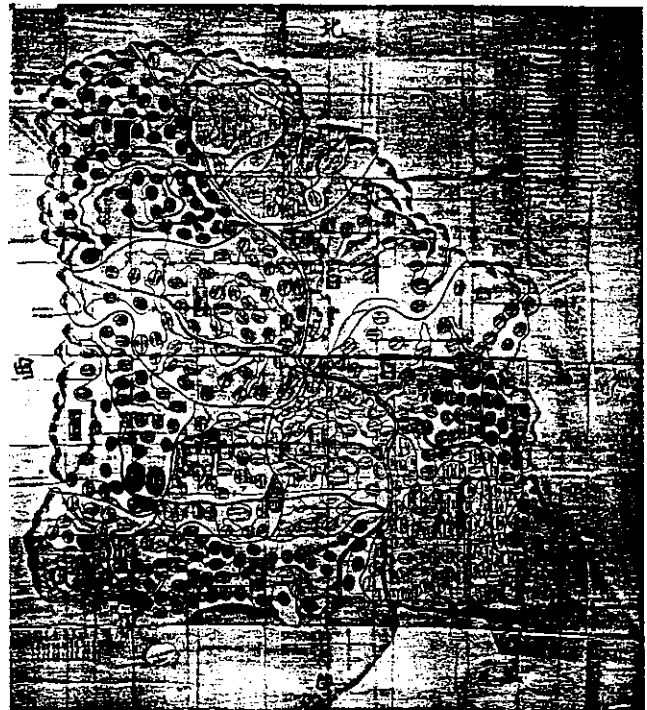
この本は、堺市博物館で行なわれた「シーボルト・日本を旅する」展の図録である。同図録には、備中・備前・伯耆・因幡・隠岐・阿波・和泉・志摩・参河の国絵図を収めている。この中の和泉国絵図には、慶長10年9月の墨書があるらしく慶長国絵図であることが確認できる。また、同解説によると参河国絵図も慶長のものらしい。さらに、備中・備前の国絵図は、岡山大学池田文庫の寛永15年作成の同国絵図と描写内容はまったく一致している(下図参照)。どのようにしてシーボルトがこうした国絵図を収集しえたのか極めて興味深い。

(上原秀明)



備中国寛永国絵図 (岡山大学附属図書館蔵)

川村博忠『国絵図』吉川弘文館 1990年 67頁より



『シーボルト・日本を旅する』34頁より

展示案内

■ 元禄大和国絵図の展示案内 ■

1995年の秋の国絵図研究会で閲覧しました奈良県立奈良図書館所蔵の元禄大和国絵図が下記の日程で奈良県立民俗資料館で開催中の「日々のくらし水をめぐって」で特別陳列（1月6日～5月17日まで）されています。また、談山神社の「中世大和の荘園絵図」（5月19日～8月30日まで）も展示されます。近畿地方の代表的な国絵図や荘園絵図を見れるまたとないチャンスかと思しますのでご案内申し上げます。また、熟覧や写真撮影も同館の展示を担当されました大宮守人先生まで事前にご連絡いただければ可能です。詳しくは磯永までご連絡下さい。

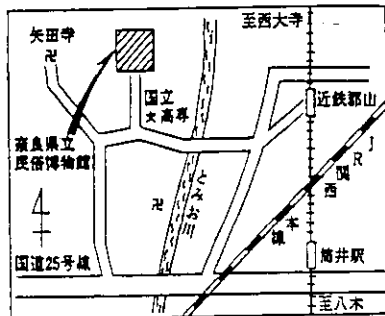
記

- 1 場所 奈良県立民俗博物館（月曜休館）
奈良県大和郡山市矢田町545（大和民俗公園内）
TEL 0743-53-3171
- 2 開館時間 9:00～16:30（入館は16:00まで）
- 3 入館料 大人300円
- 4 展示期間

大和元禄国絵図1998年1月6日～5月17日まで

中世大和の荘園絵図1998年5月19日～8月30日まで

- 5 問い合わせ先 京都府宇治市折居台1-1
宇治市歴史資料館内 磯永和貴
TEL 07774-20-1311



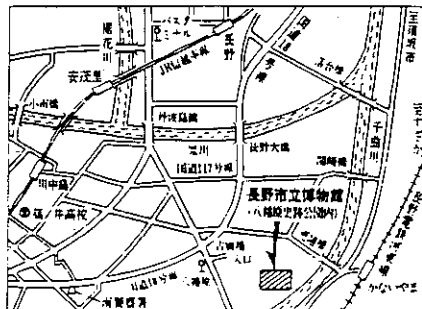
近鉄橿原線郡山駅下車奈良交通バス①のりばより「矢田東山」下車徒歩7分。駐車場あり。

● 特別展 信濃の国絵図 ●

長野市立博物館で「信濃の国絵図」と題した特別展が下記の 予定で開かれます。展示品などの詳細は、同館までお問い合わせ下さい。

記

- 1 場所 長野市立博物館（月曜・祝日の翌日休館）
長野市小島田町1414 TEL 0262-84-9011
- 2 開館時間 9:00～16:30（入館は16:00まで）
- 3 入館料 大人300円
- 4 展示期間 1998年7月26日～9月6日まで
- 5 問い合わせ先 上記の長野市立博物館まで



編集後記

国絵図ニュースの編集は、磯永が担当することとなりました。ご覧の通り、研究余滴、各地の国絵図と関係史料、本の紹介、展示案内のコーナーを設けましたので、どしどし原稿や情報、研究会の企画などを下記までお願い申し上げます。

次号では、会員名簿をお送りするつもりでおります。会費納入が未納の方はお早くお納め下さい。また、新入会員も随時募集しております。入会の条件は一切ありません。年会費2000円のみです。表紙の国絵図研究会事務局（上原）か、下記の磯永までお問い合わせ下さい。次回の研究会は、東北は米沢の白布温泉です。温泉と国絵図を楽しみましょう。

《国絵図ニュース編集担当》 磯永 和貴

〒611-0023 京都府宇治市折居台1-14 宇治市歴史資料館内

TEL 0774-20-1311